

# [dōnk]

## DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0803

三重県津市柳山津興600-5 滝澤方  
600-5, Yanagiyama-tsuoki Tsu-shi

TEL 090-4867-1476

FAX 059-227-8010

N°119 Juill 2020 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

## こんな時だからこそ～“ちょいとフランス音楽はいかが？”



ピアニスト 伊藤 隆之

### ～フランス音楽とフランス文化、フランスでの実体験、 手軽に聴けるお勧めの曲などのウンチク～ その1

コロナウィルスの影響で、緊急事態宣言は解除されたものの、皆さんまだまだ不要不急の外出は控えていらっしゃる事と存じます。私の勤める愛知の音大でも、5月は生徒の入校が禁止のため、PCによる課題に答えてもらったり、フランスの作曲家を深く知る手掛かりになる曲を紹介して聴いてもらっていました。

という訳で、これを機に、皆さんにも、巷ではまだまだ馴染みの薄いフランスの音楽、文化により親しみを持ってもらえればと、課題に出したウンチクを再編し、「ドンク」でもご紹介させて頂く事となりました。

ベースになる文章が、フランス語もフランス音楽も殆ど初めてという方に焦点を当てましたので、フランスに造詣の深い日仏協会の皆様には失礼な部分もあると思われかもしれませんが、その辺は、どうぞラテン的におおらかに読んで頂ければ幸いです。30年以上在仏していた経験からの徹底的に偏った脱線にもお付き合い下さい。

### 1. 読みづらいと思われがちで敬遠されやすいフランス語

日本では、とても特殊で、発音もフガフガして、読み方も難解と敬遠されがちなフランス語ですが、フランス語の読み方には決まりがあって、例外は英語に比べて遥かに少ないのはご存じの通りです。

問題なのは日本語には母音が5種類しかないのに、フランス語の母音は10以上あり、フランス人はそれを聞き分ける事が出来てしまう所です。ですので、5母音しかないカタカナで表記するのは限界がある訳です。

母音だけを考えても、日本語の母音は口や唇の動きとしては浅いですが、フランス語の母音は浅いものと、唇をかなり駆使した深いものの差が激しいですから、声楽の人がフランス歌曲を歌う時に、苦労するのがコレになります。

例えば、よく言われている事ですが、12時を表す Douze heures と、2時を表す Deux heures は、カタカナにすると、どっちもドウザールになりますが、12時の方のドウは ou ですから、唇を丸めたような深い「ウ」、2時の方の eu は浅く平べったい「ウ」になり、フランス人は「そんなん、あつたりめえよ」と、生まれた時から聞き分けて育っているから問題ないのですが、母音の少ない日本人はレッスンの約束などで、しょっちゅう12時と2時を間違えます。

私の恩師、故 ジェルメーン・ムニエ先生は「日本人はあまりにも12時と2時を間違えるから、12時をmidi、2時を必ず14時というように変えたのよ」とおっしゃっていました。

ご存じ Oui も深い「オ」の口の形を先に作って「ウィ」っと言わないと雰囲気が出ないですよ。

英語やローマ字の読みとは、読みの規則がかなり違うフランス語、そこから見えてくるフランス語の誤解なども、音楽と絡めて数回にわたりお話し致します。

## 2. 近代になってから登揚するフランス語の音楽用語

音楽で使われる速さや強弱、表現などを表記する音楽用語の事を略して「楽語」といいますが（知り合いで「らくご」と読んだ方がいますが「がくご」です）、実は、時代によって使われる言語が異なります。

これは面白い事にその当時、世界の文化の中心がどこであったかを表しています。

その時代の世界の中心になっている国の言語を使うとカッコイイという事なんです。

楽譜が現代の形にまとまってきたルネッサンス～バロック期頃まではイタリアが世界の中心。なので、フォルテ（強く）、ピアノ（弱く）のように、楽語はイタリア語が多いのです。例えばオペラなどでもイタリア語で作るのがカッコよかった訳です。

古典期に入り、だんだん文化の中心がウィーンを中心としたオーストリア、ドイツに移るにつれて、モーツァルトが初めてドイツ語でオペラを書き、ロマン派の時代になってシューマンなど、楽語を堂々とドイツ語で書くようになりました。

そして近代印象派の時代は文化の中心はパリだったので楽語もフランス語に...とよく考えると、今は英語のポップが何となくカッコイイですね。日本のポップでも歌詞中に英語が挿入されるのが当たり前になっています。アメリカが世界を左右する国になったからに他なりません。

印象派の時代、世界の文化の中心はパリ。ドビュツシー(1862-1918)が通っていた、詩人のマラルメの家で毎週火曜日に催されていたサロン討論会である「火曜会」のメンバーは、モネ、ドガ、ゴーガン、オスカーワイルド、メーテルリンク、ヴェルレーヌという今聞いたらびっくり返りそうな、どえらいメンバーでした。

ベル エポックと言われるこの時代、フランスはこんなに文化が花開いていたのです。

こんなことを考えながら1900年前後のフランスに注目して、美術や音楽をひも解くと、より近いものとして捉えられるかもしれません。

**Q 1** さて、ここでクイズです。次のフランス語の楽語はドビュツシーがよく使っていたものです。これらの意味、又は同じ意味のイタリア語の楽語を下の語群から選んでみて下さい。（答えは末尾です）

- 1. cédez** ヒント：国民の殆どが暴走ゲームの様な運転をするフランスには「Cédez le passage」という道路標識が溢れかえっています（恐ろしい事にゲームオーバーになる事がしょっちゅうあり）。意味は「徐行、スピード落とせ」になります。
- 2. retenu** ヒント：イタリア語もフランス語も元はラテン語なので似ている単語はいっぱい。ritenutoと同じになります。
- 3. animé** ヒント：漫画を動かすアニメも同じニュアンスから来ています。
- 4. modéré** ヒント：イタリア語とそっくりな速度表示です。

ここから後もイタリア語と似た楽語たちです。

- 5. expressif    6. marqué    7. peu à peu    8. léger**

語群： **moderato**   **marcato**   **だんだん遅く**   **poco a poco**   **丁寧に(ただちに速度をゆるめて)**  
**leggiero**   **(魂を込めて)生き生きと..(命令形は animez になります。)**   **espressivo**

楽語ではなく、音楽形式ですが、fugue (フュグ) がフーガの事だと解るまでかなり時間がかかった記憶があります。



さて、世の中が便利になり、もちろんCDなどで、いい音質で鑑賞できるに越したことはありませんが、PCによる動画でも簡単に検索し、音楽がひも解けるようになりました。

今回は「一人の女性をめぐるフォーレとドビュツシーの険悪なムード」と題し、作曲家の裏話と生涯を中心に話しますが、その前に今回のお勧め曲です。

今回は日本では歌曲ばかりが有名なフォーレの宗教曲、ピアノ曲、室内楽の素晴らしさに触れて頂きましょう。フォーレは音や和音を色彩、光と捉え、音楽を印象派に導いた重要な作曲家です。

## Gabriel Fauré (ガブリエル・フォーレ)

### Cantique de Jean Racine op.11 「ラシーヌ (の訳詞による) 賛歌」

...この曲は「ラシーヌ賛歌」と訳されていますが、フランスでとても有名な劇作家であり詩人のラシーヌが、ラテン語をフランス語に訳した詩にフォーレが音楽をつけた宗教曲です。

ですのでラシーヌを賛美している歌ではありません。

歌詞の大意は「イエス様、私たちを暗闇から救い、光に導いて下さい」という、まさに今、タイムリーな美しいオーケストラと合唱の曲です。

### Nocturne No.4 op.36 「ノクターン第4番」 Nocturne No.6 op.63 「ノクターン第6番」

...数あるノクターンの中の代表作。美しい鐘の音を意識したと言われる4番を、ピアニストのホルトーは「はにかむ少女の様な美しさだ」と絶賛しました。

6番は美しいハープの様な壮大な中間部を持つ、ノクターンとしては大作です。

演奏はサンソン・フランソワ(Samson Francois)か、マルグリット・ロン(Marguerite Long)がお勧めです。

### Quatuor No.1 op.15 (2eme mouvement) 「ピアノ四重奏曲第1番」第2楽章

...室内楽の素晴らしさがわかりやすいと思います。

PC検索の場合は2楽章だけの動画はないので、全曲で検索して、2楽章に早送りして下さい。

演奏者はやはり上記の2人からどうぞ(ロンは10分、フランソワは9分目あたり)。

興味のある方は他の楽章も。終楽章(4楽章)の盛り上がりは圧巻、カッコイイです!

ロンはフォーレ、ラヴェル、ドビュツシーから自分たちの作品を後世に伝えてほしいと指名され、レッスンを受けた人。フランソワはロンの弟子にあたります。ちなみに私の思師のムニエ先生もロンの弟子で、ロンからロンの後継者に指名された人です。

それでは皆さん、フランス音楽で心豊かに過ごせますように!





## フランス コロナ四方山話



みなさん、この写真はなにかわかりますか？

コロナ対策でパリのカフェやレストランではテラス席のみの営業制限が続いていましたが、6月15日から、やっと屋内での営業も可能となりました。ただ、席を間引いての営業なので売り上げが落ちてしまう。そこでパリ市は9月末まで、歩道や広場、車道の路駐スペースといった公共スペースにもテーブル席を設置することを許可したそうです。



写真の商品 topit は、テラス席をいつもより増やすためのアイデア商品。歩行者を車から守るために設置されているポールの上に乗せて、臨時の立

食用テーブルとして使うためのものでした。

この情報は、メディアやSNSを通じて読んだ記事で、個人的に面白いと思ったもの（ネット版 Le Parisien より）。

フランスでのコロナ事情に関しては、大統領が「戦争」と形容したこと、日本よりも感染者／死者数がずっと多いことなどの「事実」は伝わってきますが、ではフランス人のコロナに対する「皮膚感覚」はというと、容易に渡仏できない現在、本当のところはよくわかりません。この商品が本当に流行しているのかは不明ですが、単純にコロナ関連の楽しい情報として読んでください。（浅野信二）

### >> 会員の皆様へのお知らせ <<

毎年7月には恒例の総会・パリ祭パーティを催しておりましたが、本年は新型コロナウイルス感染予防対策もありまして、誠に残念ながら中止といたしました。つきましては今回、総会議案書・議案書賛否のための書面議決書を同封いたしましたので、お手数ではございますが返送をお願いいたします。

来年度につきましては、感染予防が落ち着き平静に戻り、いつも通りの総会・パリ祭パーティが開催できることを祈っております。

### 年会費納入のお願い

2020年度の年会費；個人 3,000円

同封振込用紙にて、または直接ATMにて、右記口座あて納入のほどよろしくお願ひいたします。

百五銀行 本店営業部  
普通預金 口座番号 153969

### Q1の答え

1 だんだん遅く 2 丁寧に 3 生き生きと 4 moderato 5 espresso 6 marcato 7 poco a poco 8 leggiero